若既シク覚候ハバ
我等ノ所業終候処ヲ
爾等眼ヲ開テ看ヨ

2月3日
平民社
第3号
特別料 1部 30円
年分1,200円（アタル）

叛旗

革命者同盟

発行人 加藤文人
編集人 仲代善彦
発行所 横浜市新吉区
京人町2－197
東京八王子郵便局
大久保2日気付
共産主義者同盟
「叛旗」編集委員会
TEL 03－363－5809
振替 東京 162856

2月11日

建国記念日―靖国神社法案
粉砕闘争
連絡先 大久保プロ

日本支配階級の帝国主義的再編を粉砕し

党―軍―統一戦線の陣型を強化せよ！

（Ⅰ） 前提的諸問題――問われているのは何か

私達は六〇年代、とりわけ六七―六八年以降の諸闘争の過程の中ではじめて次のような経験を出あってきた。それは今日の階級闘争の発生の根源である資本主義の矛盾が、いわゆる「豊かな社会」の内部にも、いかに深刻であるかを明らかにしたことである。それは、いわゆる「豊かな社会」の内部にも、いかに多くの貧困層が存在しているかを明らかにしたことである。それは、いわゆる「豊かな社会」の内部にも、いかに多くの疎外された人間が存在しているかを明らかにしたことである。それは、いわゆる「豊かな社会」の内部にも、いかに多くの差別が存在しているかを明らかにしたことである。それは、いわゆる「豊かな社会」の内部にも、いかに多くの抑圧が存在しているかを明らかにしたことである。それは、いわゆる「豊かな社会」の内部にも、いかに多くの搾取が存在しているかを明らかにしたことである。

それは、いわゆる「豊かな社会」の内部にも、いかに多くの人間が、人間らしく生きることを願っているかを明らかにしたことである。

それは、いわゆる「豊かな社会」の内部にも、いかに多くの人間が、人間らしく生きることを願っているにもかかわらず、人間らしく生きることを拒まれているかを明らかにしたことである。

それは、いわゆる「豊かな社会」の内部にも、いかに多くの人間が、人間らしく生きることを願っているにもかかわらず、人間らしく生きることを拒まれているにもかかわらず、人間らしく生きることを願うことを、いかに多くの人間が、いかに多くの人間らしく生きることを願っている人々が、人間らしく生きることを願うことを

裁判闘争への視点（その三）

立花　薫（戦闘団戦士）

「統一公判」論の検討

私達は「裁判闘争への視点」（その一）の押し込めが法則化し裁判闘争への関りの戦略的意義を浮彫りにしたことによって私達は開かれた関係として捉直される段階をさし示した間、提起された問題の全貌を明らかにする為に、権力の立ち現れの分析を必要としている。

私達は、東大裁判に、そして提起された「統一公判」論の内容の検討を、その戦略的意義を明らかにすべきである。

この問題は、「裁判闘争の諸見解の検討と権力の動向への私達の主体的立場」の二の動揺、解体・再編の各論の一部として、「司法権力の二重の動揺―解体―再編」の題名で、「戦闘団戦士」紙上で展開されている。

「司法権力の二重の動揺―解体―再編」は、まず第一に国家を統合する機能を担う司法権力の二重の動揺、解体・再編の各論の一部として